

検討課題『「研究に関する目標」の達成状況の評価』の検討について（案）

（研究業績等の水準判定）

- 研究の成果の評価に当たっては、その水準の判断が不可欠であり、国立大学法人等の研究活動を社会に向けて分かりやすく説明していく上でも重要な基礎となる。したがって、中期目標の達成状況の評価するには、研究業績等の水準判定を行う。
- この水準判定に当たっては、学問分野・領域ごとに多様な側面から調査及び分析することが必要である。その際、国際的な視点を踏まえた学術的な意義や、研究の成果の社会への還元に基づく効果等を重視する。
- どのような方法でこの判定を行うかなどについては、検討する。

- 研究業績等の水準判定は、研究の状況及び成果の質を判定するために行うもので、全ての国立大学法人等が対象となる。
水準判定はピア・レビューを原則とする。その具体的な方法等については、さらに検討する。

◆ 研究業績等の調査・分析の視点**基本的考え方**

- 1) 研究活動や研究成果の質を把握し、社会的説明責任を果たすためには、量的側面からの評価だけではなく、水準判定を基礎とする質的な判定が不可欠である。したがって、全ての国立大学法人等が水準判定の対象となる。
- 2) 水準判定を行う場合には、研究活動や研究成果等について次の点を踏まえる。
 - ① 学術的な意義からは、国際的視点も考慮しつつ、独創性等を重視した分析。
 - ② 研究成果の社会への還元については、地域社会への貢献、地域との連携・協力の推進、国際社会への寄与等についての分析。

◆ 学問分野・領域の区分の考え方**基本的考え方**

- 1) 水準判定を行うには、それぞれの学問分野・領域の特性を踏まえ、適切な区分の設定が必要である。
- 2) 適切な区分の設定に当たっては、次のことを踏まえる必要がある。
 - ① 各国立大学法人等及び研究者が理解しやすいものであること。
 - ② 適切な評価者数及び評価作業量に配慮した区分となること。